

ふるさと発見！（小・中学生向け）

がくふ はまぼう学府

〈児童・生徒数〉 令和7年5月1日現在

ふくで 福田小学校	531人
とよはま 豊浜小学校	84人
ふくで 福田中学校	330人



ハマボウの花
(はまぼう公園 2025年撮影)

ふくでちく とよはま
福田地区と豊浜地区からなる「はまぼう学府」は、この地域に群生するハマボウから名付けられました。おたがわもとしまいせき
太田川下流西側に「元島遺跡」が発掘され、古代から集落があった地域です。江戸時代には福田湊が整備され、輸送手段が鉄道に移る明治時代まで、水運の拠点として栄えました。産業では別珍・コール天に代表される織物産業と、シラス漁を中心とした漁業が盛んです。さらに太田川によってつくられた肥よくな土地と、温暖な気候により、メロンなど様々な農作物が栽培されています。



なまえ ゆらい 福田と豊浜の名前の由来

ふききれいで
福田は「吹き切出」が由来です。「太田川が南西に曲がり流れて、吹き切れて海に出たところ」という意味です。（『角川日本地名大辞典 22 静岡県』より）

ちせいかいよう めん かいさんぶつ ほうふ
豊浜は、「地勢海洋に面し海産物の豊富ならん」との願いが由来です。全体が海に面していて、海産物の豊漁を望んだことによります。（『豊浜村誌』より）

福田地区の地図



「いわたふるさと散歩（福田編）」
磐田市文化財課より

きんげんだい おりものさんぎょう はたお おと ひび まち 近現代の織物産業 《機織りの音が響く町》

1

しょうや てらだひござ えもん
庄屋の寺田彦左衛門という人が、奈良への旅の途中に、足袋底用雲斎織という織り方の手法を見て持ち帰り、自宅で織ったことが始まりと伝えられます。その後、寺田市十が別珍・コール天の製造方法について研究開発に取り組み、1913（大正2）年に別珍の製織方法を開発して各工場に採用されました。さらに、第一次世界大戦の軍用物資として輸出が急増し、製織の工程を分業化して専門に行う工場が現れました。第二次世界大戦後も主要な輸出産業として再建され、最盛期には町じゅうに機織りの音が響きました。

現在、福田地区を中心とする遠州地域は、別珍・コール天の国内主要産地です。また綿や麻、特殊な繊維も織られています。コーデロイハウスでは、遠州産の生地や洋服・小物類など、様々な製品の展示販売を行っています。手織りの体験も行われ、磐田市の繊維展示交流施設として広く綿織物の情報を発信し、その歴史や技術を紹介しています。



コーデロイハウス（2025年撮影）

てらだいちじゅう 寺田市十（1863-1924）について

1892（明治25）年ごろから織物工場を経営するかたわら、1910（明治43）年ごろより別珍の製織方法の研究に携わり、その開発に成功しました。全国特産品博覧会で一等金賞をとるなど、福田の織物産業の発展に貢献し、その功績をたたえた記念碑が建てられました。記念碑は福田図書館から南へ300mほどの場所にあります。

2

3

かせん うみ のうぎょう すいさんぎょう しんせん くだもの かいさんぶつ 河川と海・農業と水産業 《新鮮な果物や海産物がいっぱい》

- ② 太田川沿いの平野は、河川がもたらす豊かな土と温暖な気候で、メロン栽培に適しています。また大都市の中間に位置する遠州地域は、出荷にも大変便利です。生産者の努力による安心・安全で高品質なメロンは、消費者から高く評価されています。
- ③ 福田漁港を中心とした海岸は、シラス漁に代表される水産業が盛んです。シラスはマイワシやカタクチイワシなどの*稚魚のことです。魚市場に運ばれたシラスは、近くのしらす加工工場で「しらす干し」に加工されます。福田漁港には「渚の交流館」も開設され、ふれあい漁港として親しまれています。

*稚魚…卵からかえったばかりの魚。

4

れきし げんてん もとじまい せき
歴史の原点・元島遺跡

太田川河川改修の発掘調査により、元島地区に弥生時代から江戸時代までの住居跡などの遺跡が発見されました。弥生時代中期に海面が低下して集落ができ、生活に使った土器が多数出土しています。しかし弥生時代後期の土器の発見は少なく、再び海面が上昇して人が住める環境ではなくなったようです。その後、鎌倉時代に再び集落が形成され、以後、室町時代にかけて、政治情勢や自然災害による繁栄と衰退を繰り返したと考えられています。

15世紀後半には、中世の都市として栄えた見付宿や、太田川・原野谷川流域集落へ物資や人を運ぶ水運の拠点として、重要な役割を担っていました。輸入の器や高級なうるしをぬった器など、貴重な遺物も見つかっています。

江戸時代になると、幕府は太田川と原野谷川の氾濫を防ぐとともに、新田を開発するために元島周辺の河川改修をします。1604（慶長9）年以降に旧元島集落はなくなり、開墾されて元島新田となりました。

5

6

けんしていゆうけいぶんかざい
県指定有形文化財

豊浜地区には貴重な県指定有形文化財が保管されています。

⑤ 絹本著色釈迦十六善神画像

中央に釈迦、左右に菩薩、周りに十六善神が置かれています。絹本とは絹の布に書かれた書画で鎌倉時代の貴重な作品です。中野白山神社に保管されています。

⑥ 鰐口

神社や寺院につるされる円形のドラのようなもので、綱で打ち鳴らしてお祈りします。県内で5番目に古い1360（延文5）年に作られたもので、南北朝時代の「延文五年」という年号が刻まれています。現在、大島公民館の観音堂に保管されています。

7

くにとうろくゆうけい
国登録有形文化財

昭和前期に建てられた寺田家住宅主屋は、綿織物工場の事務所を兼ねた住宅です。隣接する旧丸四織物合名会社倉庫とともに、綿織物産業の名残を伝える歴史的な建造物です。現在、倉庫は音楽ホールなどとして活用されています。



寺田家住宅主屋

旧丸四織物合名会社倉庫
(ドルチェ倉庫)

『磐田の文化財』
磐田市文化財課より



はいじん さなえあんちせき
俳人・早苗庵知碩

本名を加藤多陰（1814-1901）といい、現在の豊浜中野で生まれました。若い頃より農業のかたわら、俳人の柿園嵐牛に学び、のちに柿園嵐牛門下の四天王のひとりとなり、東西に名を広めました。門人数百人を育て、人々に尊敬されたといわれています。1902（明治35）年には門弟たちによって句集が発行されました。知碩の句は見付の見性寺や中野公民館の句碑に残されています。

9

かんこう ぼうさい
観光と防災

福田漁港近くの「渚の交流館」は、遠州灘の美しい景観と、豊富な海産物や野菜などを味わえる観光スポットです。海辺ににぎわいをもたらし、「食」を中心に地域の魅力を発信しています。併設する津波避難タワーは高さ15m、330人が収容できます。ふだんは防災教育や防災訓練に活用され、防災意識の定着や向上に役立てられています。



津波避難タワー（2025年撮影）

くわしく調べるには

■ **はまぼう学府全体について**

- ・『福田町史』 ・『福田町の歴史』 ・「いわたふるさと散歩 磐田文化財マップ（福田編）」★
- ◎磐田市ホームページ

■ **織物産業や寺田市十について**

- ・『水運の拠点から織物の町へ』 ・『わたしたちの磐田』 ・『福田町織物沿革誌』
- ・『私たちの福田 第1集 郷土の先覚者たち』 ・『磐田の記録写真集 第二集 磐田の産業』
- ・『郷土の発展につくした人々 下巻』
- ◎コーデュロイハウスホームページ <http://cdhouse.com>

■ **水産業・農業について**

- ・『遠州の地場産業』 ・『わたしたちの磐田』 ・『磐田の産業』
- ◎渚の交流館ホームページ <https://www.entetsuassist-dms.com/nagisa/>

■ **元島遺跡について**

- ・『水運の拠点から織物の町へ』 ・『私たちの福田 第2集 史跡をたずねて』
- ・『元島遺跡現地説明会資料』 ・「いわたふるさと散歩 磐田文化財マップ（福田編）」★

■ **豊浜地区文化財について**

- ・『磐田の文化財』 ・『私たちの福田 第2集 史跡をたずねて』 ・『磐南文化 第13号』★

■ **早苗庵知碩について**

- ・『私たちの福田 第1集 郷土の先覚者たち』 ・『私たちの福田 第2集 史跡をたずねて』
- ・『加藤知碩集』 ・『磐田市の歌碑・句碑を訪ねて』
- ・『磐南文化 第5号・28号』★

■ **渚の交流館について**

- ◎磐田市ホームページ

※★印は電子図書館から見ることができます。



図書館
ホームページ



磐田市
ホームページ